

介護人材、キャリア形成の仕組み作りがカギ

国際医療福祉大学大学院教授 堀田聡子氏

「介護人材不足を問い直す」と題するヒアリングが4月15日、国際医療福祉大学大学院教授の堀田聡子氏を講師に招き開催された。堀田氏は現在、厚労省の社会保障審議会介護給付費分科会委員などを務めている。

堀田氏は、豊富なデータをもとに介護形態別、正規・非正規の現状、賃金、採用、離職、人材育成など多面的に詳細な説明を行った。そのうえで介護分野は専門職の労働市場として確立されておらず、景気に左右されやすく、また都道府県ごとの差も大きい。こうした面はあるものの、介護職の賃金はデータを見る限り他産業並みになってきていると指摘した。

また、団塊の世代が75歳になる2025年には介護職は38万人不足すると言われているが、現状の非効率さが続くことが前提になっている。そこまで不足しないのではないかと述べた。

堀田氏が報告の中で強調したことは、介護分野の担い手の問題を低賃金と人手不足に切り詰める傾向があるが、問われているのは専門職としてキャリア形成する仕組み、「人のために役立ちたい」という介護職が持っているモチベーションを高める魅力ある職場づくりにある、という点であった。長年の介護現場での調査からの重たい提起と受け止めた。

今回ほとんど触れなかったが、オランダの介護政策にも詳しいとのことなので、是非また話を聞きたいと思った。（蜂谷 隆）

